



和歌山県串本町から得られたマメウツボ

山内洋紀¹

Author & Article Info

¹ 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所（白浜町）
yamauchi.hiroki.3r@kyoto-u.ac.jp

Received 08 July 2026
Revised 10 July 2026
Accepted 11 July 2026
Published 12 July 2026
DOI 10.34583/ichthy.69.0_30

Hiroki Yamauchi. 2026. First record of *Gymnothorax reevesii* (Richardson, 1845) (Muraenidae) from Wakayama Prefecture, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 69: 30–33.

Abstract

A single specimen (706 mm total length) of *Gymnothorax reevesii* (Richardson, 1845) (Muraenidae), distributed in the western Pacific Ocean, was collected from Kushimoto, Wakayama Prefecture, Japan. In Japanese water, the species has previously been recorded from the southern East China Sea and Kagoshima (Kyushu), Kochi (Shikoku), and Shimane (Sea of Japan coast of Honshu) prefectures on the basis of voucher specimens. Although the species has also been listed from the Kii Channel off Wakayama Prefecture, that record was based solely on a regional fish checklist without voucher specimens. Therefore, the present specimen represents the first voucher-based record of *G. reevesii* from Wakayama Prefecture.

マメウツボ *Gymnothorax reevesii* (Richardson, 1845) は、ウツボ科 Muraenidae ウツボ属 *Gymnothorax* に属し、インドネシアからマルキーズ諸島、日本にかけの太平洋の広域から記録がある (Allen and Erdmann, 2012; 武藤ほか, 2021)。なお、日比野・折田 (2022) は Allen and Erdmann (2012) などによるマメウツボの記録にはタピオカウツボ *Gymnothorax shaoi* Chen and Loh, 2007 が混同されていることを指摘しており、マメウツボの正確な分布域は再検討が必要である。一方、日本国内からのマメウツボの記録は、武藤ほか (2021) による詳細な検討をともなう東シナ海と島根県からの報告を筆頭に、高知県 (谷岡, 2024; 山口・遠藤, 2024) と鹿児島県 (小枝, 2022) からも標本あるいは写真に基づく分布記録が追加された。また、マメウツボは紀伊水道からも文献情報に基づいて記録されている (南西海区水産研究所

内海資源部, 1987; 吉郷, 2018)。ただし、武藤ほか (2021) と日比野・折田 (2022) が指摘するように、彼らによる再検討以前のマメウツボの記録は、他種との誤同定の可能性が多分にある。

2023 年 3 月、和歌山県の串本町沖で 1 個体のマメウツボが採集された。本標本は和歌山県からの標本に基づく初めての記録となるため、ここに報告する。

材料と方法

標本の計数および計測方法は Böhlke (1989) および Böhlke and Randall (2000) にしたがった。全長、躯幹部長、尾部長および肛門全長は直尺を用いて、その他の体各部の計測はノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行った。脊椎骨数の計測は軟 X 線写真を用いた。歯と頭部の側線器官の記載に用いる用語は日比野・伊藤 (2022) にしたがった。本研究で用いた標本は京都大学総合博物館 (FAKU) に登録・保管されている。

Gymnothorax reevesii (Richardson, 1845)

マメウツボ

(Fig. 1; Table 1)

標本 FAKU 211409, 1 個体, 全長 706 mm, 和歌山県東牟婁郡串本町田並沖, 水深 50 m, 延縄, 2023 年 3 月 9 日, 山本真弘。

記載 計数形質および体各部の全長もしくは頭長に対する計測値の割合を Table 1 に示す。体は長く、側扁し、頭部から尾部先端にかけて徐々に細くなる。肛門は体の中央よりわずかに後方に位置する。吻は丸みを帯びる。口は大きく、完全に閉じる。上顎は下顎よりもわずかに突出する。前鼻孔は短い管状で、吻端近くに位置する。後鼻孔は短い冠状で、眼の前縁上方に位置する。眼は大きく、上顎中央付近よりも前方に位置する。鰓嚢部腹面に明瞭な縦皺をもつ。鰓孔は眼径よりもわずかに小さく、その長さは眼径の 0.8 倍。開口部は体側の中央付近に位置し、スリット



Fig. 1. Fresh specimen of *Gymnothorax reevesii* (FAKU 211409, 706 mm total length) collected from Kushimoto, Wakayama Prefecture, Japan.

状をなす。背鰭は高く、始部は鰓孔より前方にあり、眼と鰓孔のほぼ中央にある。臀鰭は背鰭よりも低く、その始部は肛門直後にある。眼上感覚管孔は1+2個、眼下感覚管孔は4個、下顎感覚管孔は6個、鰓部感覚管孔は2個ある。歯はすべてやや後方を向く鋭い犬歯状で、切縁は平滑で鋸歯はない。前上顎板側方部には左に6本、右に5本ある。前上顎板中央部には長く細い円錐歯が2本あり、最初のものが最長で、2本目のものは後方に向かって倒れる。主上顎骨歯は1列に並び、左に15本、右に16本あり、最後のものが最短である。鋤骨歯は小さく、2本が1列に並ぶ。下顎歯は1列に並び、左右とも前方から大きな歯が3本連続し、続いて小さな歯が1本、大きな歯が1本並んだのち、大きさがほぼ均一な歯が左に16本、右に18本並ぶ。

色彩 生鮮時の色彩 (Fig. 1) は、体の地色は褐色で、両顎部と腹部はやや淡い黄色を呈する。体に眼径と同程度かそれよりも大きな円形から楕円形の不規則な暗褐色斑が2-4列並び、互いに連続しない。この暗褐色斑のほか、瞳孔と同程度かそれよりも小さな褐色から暗褐色の不定形の点々が散在し、頭部や鰓嚢部では密集するが体の後半に向かうにしたがい疎らになる。背鰭にも体と同様な不規則な円形が1-2列並び、不定形の点々が分布する。臀鰭には1

列の不規則な円形が並ぶ。背鰭の縁辺部は黒く縁どられる。眼の虹彩は褐色。後鼻孔は淡い黄色で縁どられる。鰓嚢部の縦皺は体の地色と同じ褐色。

ホルマリン固定後70%エタノール保存下の色彩は生鮮時とほぼ同様であるが、体の地色が褐色から灰色へ変化する。両顎部と腹部のやや淡い黄色は失われ、淡い黄色で縁どられた後鼻孔は淡白色へと変わる。

分布 マメウツボにおける分布記録は前述のとおりである。和歌山県に面する紀伊水道からは文献上の記録はあるものの、今回の記載標本により和歌山県沿岸に本種が確かに分布することが確認された。

備考 和歌山県産の標本は、歯がすべて鋭い犬歯状であること、背鰭の始部が眼と鰓孔のほぼ中央に位置すること、虹彩が褐色であること、体側に2-4列の互いに連続しない暗褐色斑があること、腹部がやや淡い黄色を呈すること、背鰭に1-2列の不規則な円形斑あること、背鰭の縁辺部が黒く縁どられることなどの特徴が武藤ほか (2021) の示したマメウツボ *G. reevesii* の特徴と一致したため、本種に同定した。また、日比野・折田 (2022) がマメウツボに近似するタビオカウツボ *G. shaoi* との識別点として指摘した、体高が高いこと、後鼻孔が淡白色で縁どられること、

上顎と下顎に内列歯がないことなどの特徴も確認できた。マメウツボの識別形質として武藤ほか (2021) では背鰭、臀鰭および尾鰭が黒く縁どられることをあげている。本標本は背鰭の縁辺部が黒く縁どられていたものの臀鰭および尾鰭が損傷していたため、これらについては確認できなかった。

今回の標本は、Chen and Loh (2007) の計 9 個体 (432–725 mm TL)、武藤ほか (2021) の計 2 個体 (619.1–737 mm TL) および山口・遠藤 (2024) の 1 個体 (495 mm TL) の *G. reevesii* と比較して一部の計測形質がその範囲から逸脱していた (Table 1)。これらのわずかな違いは、種内変異と判断した。

今回得られた標本の鋤骨歯は、2 本が 1 列に並ぶことが確認された。山口・遠藤 (2024) では鋤骨歯が 7 本と報告され、Chen et al. (1994) では 7 本、Ramos-Castro et al. (2020) では 13 本あることが図から確認できる。ウツボ属魚類では鋤骨歯が皮膚に埋没することや本数に変異があることが知られ (Böhlke and Randall, 2000)、アデウツボ *Gymnothorax nudivomer* (Günther, 1867) の大型個体では鋤骨歯を欠くことが知られている (Smith et al., 2019)。マメウツボにおいても同様の変異がある可能性があるが、観察した個体が少ないためこれ以上の判断はできない。

日比野・折田 (2022) は、Randall and Earle (2000) によるマルキーズ諸島からの *G. reevesii* の記録には、*G. shaoi* が混在する可能性を指摘した。山口・遠藤 (2024) は日比野・折田 (2022) の指摘に基づき、確証は得られていない

として *G. reevesii* の分布域からマルキーズ諸島を除外した。一方、Delrieu-Trottin et al. (2015) ではマルキーズ諸島から *G. reevesii* と *G. shaoi* の両種を報告しているため、本研究ではマルキーズ諸島を暫定的にマメウツボの分布記録に含めた。

謝 辞

本研究を進めるにあたり、山本真弘氏 (みなべ町) には、標本の採集にご協力いただいた。西川完途教授、後藤龍太郎助教、原壮大朗特定助教、沈彦鵬氏 (京都大学) には、軟 X 線写真の撮影にご協力いただいた。以上の方々に心よりお礼申し上げる。

引用文献

- Allen, G. R. and M. V. Erdmann. 2012. Reef fishes of the East Indies. Vol. 1. Tropical Reef Research, Perth. x + 424 pp.
- Böhlke, E. B. 1989. Methods and terminology, pp. 1–7. In Böhlke, E. B. (ed.) Fishes of the western North Atlantic. Part 9. Vol. 1. Orders Anguilliformes and Saccopharyngiformes. Memoirs of the Sears Foundation for Marine Research. Allen Press, Kansas.
- Böhlke, E. B. and J. E. Randall. 2000. A review of the moray eels (Anguilliformes: Muraenidae) of the Hawaiian Islands, with descriptions of two new species. Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia, 150: 203–278, pls. 1–9.
- Chen, H.-M. and K.-H. Loh. 2007. *Gymnothorax shaoi*, a new species of moray eel (Anguilliformes: Muraenidae) from southeastern Taiwan. Journal of Marine Science and Technology, 15: 76–81.
- Chen, H.-M., K.-T. Shao and C.-T. Chen. 1994. A review of the muraenid eels (family Muraenidae) from Taiwan with descriptions of twelve new records. Zoological Studies, 33: 44–64.
- Delrieu-Trottin, E., J. T. Williams, P. Bacchet, M. Kulbicki, J. Mourier, R. Galzin, T. Lison de Lome, G. Mou-Tham, G. Siu and S. Planes. 2015. Shore fishes of the Marquesas Islands, an updated checklist with new records and new percentage of endemic species. Check List, 11: 1–247.
- 日比野友亮・伊藤雄一. 2022. 日本初記録のウツボ科魚類 2 種 *Gymnothorax mucifer* タカノハウツボ (新称) と *Gymnothorax niphostigmus* ワタユキウツボ (新称). 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.22-011 (Nov. 2022), 70: 55–63 (Apr. 2023).
- 日比野友亮・折田大志. 2022. 奄美大島から得られた標本に基づく *Gymnothorax shaoi* (ウナギ目ウツボ科) の日本からの確実な記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 26: 30–33.
- 小枝圭太. 2022. ウツボ科, pp. 23–27. 岩坪洸樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之 (編) 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎市・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 武藤 滉・日比野友亮・星野浩一・橋本 颯. 2021. 日本海および東シナ海から得られたマメウツボ *Gymnothorax reevesii* の日本における確実な記録. 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.21-011 (July 2021), 68: 157–162 (Nov. 2021).
- 南西海区水産研究所内海資源部. 1987. 瀬戸内海と周辺域における漁獲物の種組成. 昭和 32–35 年中型 2 そうびき網による試験操業. 南西海区水産研究所調査報告, 4: 1–154.
- Ramos-Castro, M., H.-M. Chen and B.-S. Mao. 2020. Descriptions of neurocranium morphology in 34 species of moray eels (Muraenidae) found in Taiwan. Zootaxa, 4810: 81–109.
- Randall, J. E. and J. L. Earle. 2000. Annotated checklist of the shore fishes of the Marquesas Islands. Occasional Papers of the Bernice Pauahi Bishop Museum of Polynesian Ethnology and Natural History, 66: 1–39.
- Smith, D. G., S. V. Bogorodsky, A. O. Mal and T. J. Alpermann. 2019. Review of the moray eels (Anguilliformes: Muraenidae) of the Red Sea, with description of a new species. Zootaxa, 4704: 1–87.

Table 1. Measurements and counts of *Gymnothorax reevesii*.

	Present study FAKU 211409	Previous studies <i>n</i> = 12
Total length (TL; mm)	706.0	432.0–737.0
As % of TL		
Head length	15.1	12.7–14.6
Trunk length	35.3	34.6–36.2
Tail length	48.6	49.4–50.9
Predorsal length	10.9	9.0–10.0
Preanal length	51.0	49.4–50.1
Body depth at gill opening	8.4	7.5–11.7
Body depth at anus	6.6	6.3–11.1
Body width at gill opening	4.6	3.6
Body width at anus	4.1	4.6
As % of head length		
Snout length	16.4	13.5–17.3
Eye diameter	10.5	8.9–10.4
Upper jaw length	41.8	38.7–46.6
Lower jaw length	40.6	37.1–46.6
Interorbital width	12.9	15.1
Gill opening length	8.4	10.1–13.6
Counts		
Predorsal vertebrae	4	3–4
Preanal vertebrae	53	49–52
Total vertebrae	128	122–128
Previous studies include Chen and Loh (2007) (<i>n</i> = 9), Muto et al. (2021) (<i>n</i> = 2) and Yamaguchi and Endo (2024) (<i>n</i> = 1).		

- 谷岡 仁. 2024. 高知県香南市で撮影されたマメウツボ. 南予生物フィールドノート, 2024: 24003.
- 山口 蓮・遠藤広光. 2024. 高知県から得られたウツボ科魚類2種(マメウツボ・ヤミウツボ) およびそれらの表在感丘に関する新知見. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 49: 49–60.
- 吉郷英範. 2018. 広島県から記録されている海産魚類目録. 比和科学博物館研究報告, 59: 127–193.